

# 森林やまがた

No.178

2018.11



山形県森林協会は、「美しい森林づくり推進国民運動」を推進しています。



第43回山形県児童木工工作コンクール表彰



## 目次

第28回山形県林業まつり	2
やまがた美しい森林づくり推進大会開催	3
東京オリンピック・パラリンピック選手村 ビレッジプラザ木材伐採式の開催について	4
八月に発生した豪雨災害について	5
「みどりの循環」体験イベントを開催しました	6
フォレスト通信 「コロラドに行ってきました」	7
みどりのページ 郷土の名木・古木等保全事業の実施について	8
平成30年度緑の募金公募事業の交付決定について	8
センターピックス 第23回東北森林科学学会大会に参加して	10
普及情報 山形県指導林業士・指導林家等研修会の開催	10
森林組合長に聴く	11
森の人紹介 小関大祐さん・長南伸一さん	12
山形ビエンナーレ2018で西山杉の利活用をPR	13
第13回東日本チェーンソーアート競技大会開催	14
分取林契約の更新及び変更について	14
『最上・金山林業成長産業化人材育成塾』が 開催されました	15
やまがた絆の森「イオンの森」森づくり活動を開催	16
地域再生シンポジウム2018 in 山形の開催について	16
森林経営計画作成促進に向けた研修会の開催	17
丸太価格・製材品価格の推移	18

(表紙写真は、平成30年10月13・14日に開催された「第28回山形県林業まつり」の開催状況)

# 第二十八回 山形県林業まつり



今年も大盛況でした!

県民の皆様には森林の働きや木材の良さ、森の恵みのすばらしさを実感し、体験していただくため、第二十八回「山形県林業まつり」が、十月十三・十四日の二日間、天童市の山形県総合運動公園第2南駐車場において開催されました。

今年も「第六十八回山形県農林水産祭」として、「山形県林業まつり」緑と水と木の祭典」と「秋の食彩まつり」が同時に開催され、各ブースでは県産木製品や県産きのこの展示販売のほか、子どもから大人まで参加できる楽しいイベントが行われました。

今年も、二日間とも天気に恵まれ、来場者数は三万六千人と大盛況となりました。

十三日正午から、「農林水産祭合同オープニングセレモニー」として若松副知事による開会宣言や主催者らによる丸太カットが行われました。



主催者らによる丸太カット

さらに、「NPOやまがたの木・住環境共生ネットワーク」による子ども上棟式と祝い餅まきには多くの子どもたちが集まり、にぎわいを見せていました。今年も、子どもに限定して餅まきを行ったことで、多くの子どもたちに、上棟式の意味を理解してもらうことができました。また、恒例の丸太切り競争、幼児

積み木競争や青空木工教室において、たくさん子どもたちが楽しそうに木と触れ合う光景が見られ、多くの方々に木の持つ温もりを感じてもらうことができました。



「子ども上棟式 祝い餅まき」

木造建築のブースでは、県産木材を使用した迫力のある住宅構造躯体が多数展示され、来場者の皆様に直接見て触れていただくことで、木のある暮らしの良さを身近に感じていただきました。

高性能林業機械展示コーナーでは、山形県立農林大学の学生によるハーベスタの実演が行われました。二年間学び、習得した技術が披露され、今後の就職先での活躍が期待される場所です。

その他にも、旬のきのこを使ったおいしい山形の食品販売、木工クラフトやきのこ植菌体験など、県産木材をはじめとする「森の恵み」を実感していただける機会になりました。



きのこの植菌体験

今年で二十八回目の開催となった林業まつりは、毎回多くの方々においでいただける県内有数のイベントとして定着しております。今後とも、県民の皆様には森林・林業・木材産業の重要性についてご理解いただくとともに、木材の良さと森の恵みを実感していただけるよう、関係者の皆様と運営してまいりますので、皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

〔県林業振興課〕

# やまがた美しい森林づくり推進大会開催

(第65回山形県林材業年次大会)



十月十三日(土)、山形県総合運動公園において「やまがた美しい森林づくり推進大会」(第六十五回山形県林材業年次大会)が、約二三〇名の参加者を得て開催されました。

## ◆大会

高橋大会副会長の開会の言葉で始まり、細野大会会長の主催者挨拶、各林業団体から寄せられた多くの要望・提案事項の主旨説明、大会決議の提案と進められました。提案事項については、阿部大会副会長からその概要について一括

して説明があり、満場一致で原案どおり承認されました。また、安部大会副会長が大会決議を提案し、提案への取組み、予算確保要請について満場一致で決議されました。続いて、若松副知事(山形県知事代理)、猪島木材産業課長(林野庁長官代理)、鈴木憲和衆議院議員、舟山康江参議院議員、志田県議会議長から祝辞があり、盛会裏に終了しました。

## ◆提案事項

多くの林業団体から提案された森林・林業・木材産業全般に亘る諸課題から、重点課題を取上げた内容となっており、次のとおりです。

1 「やまがた森林ノミクス」の推進  
地域の森林資源を活用する「やまがた森林ノミクス」を推進し、豊かで活力ある地域社会を構築するため、次の事項を提案します。

(1) 森林境界の明確化や森林施業の集約化、高性能林業機械の導入、路網の整備を早急かつ計画的に推進するとともに、再造林、保育、苗木生産等に対する支援を強化し、森林資源の循環利用を促進すること。

(2) 平成31年4月から森林経営管理制度(新たな森林管理システム)が導入されるが、その制度を担う市町村の体制整備の構築について支援すること。また、今後創設するとされている森林環境税(仮称)及び森

林環境譲与税(仮称)については、これまでの森林施策では対応できなかった森林整備等に資するものと考えられていることから、既存の森林整備事業等については、これまで以上に十分な予算を確保すること。

(3) 地域林業の担い手である森林組合や林業事業体の育成強化を図るとともに、県立農林大学校での新たな担い手の育成や、緑の雇用事業等を活用した現場技能者の育成を積極的かつ計画的に進めること。

(4) 木材の加工流通を担う木材産業の育成強化を図るとともに、木材加工流通施設や木質バイオマス関連施設の整備に対する支援を強化すること。また、特用林産物の生産振興策を強化し、山村地域の活性化を図ること。

(5) 県産木材の需要を拡大するため、民間建築物等への利用を促す支援制度や、公共建築物において複数年での施工が可能となる補助制度の創設を図るとともに、林工連携による森林資源を起点とした新たな技術や製品の開発を促進すること。

(6) これらの取組みを総合的に推進するため、「林業成長産業化総合対策」や「やまがた森林ノミクス関連予算」等の拡充・強化を図ること。  
2 災害に強い多様で健全な森林づくりの推進

森林の持つ公益的機能を持続的に

発揮させ、地球温暖化の防止と安全安心な県土づくりを進めるため、次の事項を提案します。

(1) 頻発している集中豪雨や地震等による山地災害から県民の生活と暮らしを守るため、治山事業・森林整備事業等による災害に強い健全な森林づくりを、計画的かつ積極的に推進すること。

(2) 「やまがた緑環境税」を活用した荒廃森林の整備や森林資源の循環利用を計画的に進めるとともに、県民全体で健全な森林づくりや森林資源の利活用を進める取組みを一層推進すること。

(3) 森林の公益的機能を確保するため、水源林の整備や森林整備法人(県林業公社等)による森林整備を促進するとともに、松くい虫、ナラ枯れ被害等を防止するための森林病害虫対策をより一層推進すること。

(4) 健全な森林づくりや森林資源の利活用を推進するため、国・民有林の連携を強化するとともに、低コスト施業技術や森林資源の生産利用技術、公益的機能を高める森林整備技術等の開発・普及を促進すること。

◆おわりに  
本大会で採択された提案事項については、国・県等に提案・要望してまいります。

〔山形県森林協会〕

# 東京オリンピック・パラリンピック選手村 プロジェクトプラザ木材伐採式の開催について

## ◆はじめに

県は、平成三十二年に開催される東京オリンピック・パラリンピックの選手村プロジェクトプラザの建物に使用される木材を提供します。提供する木材は、森林認証を受けた真室川県有林から搬出され、県内のJAS製材所、プレカット工場などで加工され、来年には東京都へ運ばれる予定となっております。

また、提供した木材は、オリンピック・パラリンピック終了後にレガシーとして県内で利用される運びとなっております。

今回、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の協力を得て、この取組みのスタートイベントとして木材伐採式を行いましたので、その概要を紹介します。

## ◆概要

九月七日、真室川町にある真室川県有林にて、木材伐採式を開催しました。

当日は、新田真室川町長や東京2020組織委員会福島会場整備局長をはじめとして、本プロジェクトに

関わる方々や農林大学校森林経営学科の一年生、地元真室川町内のみどりの少年団の団員など八十名に参加いただきました。

式典後、駒林農林水産部長をはじめ、四名の方に林齢約百年のスギに斧入れをしていただき、最上広域森林組合の作業班の方から伐倒していただきました。「ドーン」と倒れた時には、大きな拍手が起りました。

倒れた木の枝払いは、農林大学校の一年生二名に、丁寧に実施していただきました。



斧入れを行う駒林農林水産部長

その後、「伐つたら植える」を実践するため、みどりの少年団の皆さんにお手伝いをいただきながら参加者全員で、スギ（コンテナ苗）の記念植樹を行いました。

最後に参加者全員で記念写真を撮り、無事に木材伐採式を終了することができました。

## ◆おわりに

この取組みは、高品質な木材供給を県内外にPRできる格好の取組みです。

今後もそれぞれの取組み状況を情報発信してまいります。

〔林業振興課〕



木材伐採式の参加者

健康家族は木の住いから



有限会社 **アイタ材木店**

〒990-2474 山形市沼木 578-6  
TEL(023)643-8201 / FAX(023)645-5994

# 八月に発生した豪雨災害について

## ◆はじめに

七月は、全国的に太平洋高気圧に覆われ、晴れて厳しい暑さが続きましたが、八月に入り、県内に前線が停滞し、日本海から温かく湿った空気が流れこんだ影響で、最上・庄内で局地的な大雨に見舞われました。

特に、八月五日から六日にかけて、前線や低気圧の影響で、最上・庄内地域を中心に、戸沢村古口の三百六十六リをはじめ、酒田市大沢、金山町金山、最上町瀬見で四十八時間降雨量が三百リ以上となるなど、記録的な豪雨となりました。

五市町村で約九千三百人に避難指示が、十一市町村の約七万五千二百人に避難勧告が行われました。この豪雨により、住宅の床上浸水二十九棟、床下浸水四百六十六棟等の被害が発生しました。

農林水産関係では、水稲などの農作物等の被害が二千七百三畝、農地・ため池の法面崩壊や土砂流入、農道・水路の被害など農地・農業用施設が三千七百一カ所など、被害額は四十八億円を超えました。

この豪雨災害からの復旧を進めて



土砂流出 (戸沢村)

いた最中、八月十五日から十六日にかけて、県内二十二市町村に大雨洪水警報が発表される大雨に見舞われ、四件の床下浸水被害などが発生しました。

さらに、八月三十日から降り始めた雨は、七十二時間降雨量が最上町瀬見や庄内町狩川等で二百リを超えるなど、最上・庄内地域を中心に再度豪雨に襲われました。避難指示が五市町村の約千二百人に、避難勧告

が七市町村の約二万八千七百八人に、百五十件を超える床上・床下浸水が発生し、県では八月三十一日に最上地域七市町村に対し災害救助法を適用しました。農林水産関係については、水稲などの農作物をはじめ農地、林地、水産への被害が発生し、被害額は十六億を超えています。



路体決壊 (最上町)

## ◆治山・林道の被害状況と復旧対策

この災害での治山災害については、林地被害が八十一箇所、約五億四千万円、治山施設被害が一箇所、約四億円でした。その中で、保全対象等の重要性から災害関連緊急治山事業

(七箇所) や治山施設災害事業 (一箇所)、県単独治山自然災害防止事業 (二十三箇所) を実施予定しています。

林道災害については、百八十一路線、三百六十五箇所、約五千八百万円でした。その中で、大規模で緊急に復旧する林道については、国庫を使った林道災害復旧事業 (十三路線、十八箇所) で復旧を予定しています。また、残りの被災を受けた林道については、木材搬出の必要な林道に対し、今年度に山形県林道等小規模災害緊急復旧事業を新設し、林道の復旧を支援します。

## ◆おわりに

森林関係の災害については、今後、本格的な降積雪期を向えるに当たり、積雪に伴う雪崩等山地災害の発生が予想されるところです。

災害はいつ起こるかわかりません。山地災害発生のおそれのある箇所については、関係市町村との緊密な連携のもと、なだれ注意報や融雪注意報等の気象情報に十分注意しながら警戒巡視・点検を実施するとともに、地域住民や観光施設等の利用者に対し、あらかじめ危険箇所や避難場所の確認をお願いします。

〔林業振興課〕

# やまがた緑環境税活用事業 「みどりの循環」体験イベントを開催しました

県は、県民の皆様が「森を守り、育て、暮らしに活かす『みどりの循環』を気軽に体験できるイベントを開催しています。

今回は、家庭で育てたどんぐりの苗木をかえす「森のホームステイ」と、森を育て暮らしに活かす「間伐体験&森のチカラ活用施設見学会」を紹介します。

## ◆森にかえす「森のホームステイ」

やまがた森の感謝祭や林業まつりなどのイベントで、竹ポットにどんぐりを植え、家庭で苗木を育てていただいた皆様を、「もくろックの森植樹会」、「南陽・草木の森」植樹会、「しんきん結の森・ぐるっと花笠の森(新庄)植樹会」に御案内しました。

「しんきん結の森・ぐるっと花笠の森植樹会」では、十月二十日(土)、新庄市民スキー場周辺の「しんきん結の森・ぐるっと花笠の森」で開催され、約二年間、家庭で大事に育てた苗木を持って参加した方々が、自らの手で育てた苗木を植栽しました。愛着を持って育てた苗木を森にかえす体験は、参加した方々にとって貴重な経験となったそうです。元氣



大人8人子ども5人が植樹会に参加しました

な森を子ども達に引き継ぐため、「森のホームステイ」を通して、県民みんなで支える森づくり活動の輪が広がっていくことを願っています。

## ◆森を育てる「間伐体験&森のチカラ活用施設見学会」

九月九日(日)・三十日(日)の両日、飯豊町と米沢市で開催しました。参加者は、講師から森の手入れの話聞いた後、チェーンソーや高性能林業機械での伐採を見学しました。その後、のこぎりで枝払いや林業機械の試乗などを体験しました。体験終了後は、木質バイオマス発電所(NKCながいグリーンパワー㈱・グリーンサーマル米沢㈱)に移動し、伐採された丸太がチップに加工され、それを燃料に発電が行われる過程を見学しました。その他、けん玉等の



枝払い作業の様子

てる意識を学んでもらいました。

木製玩具に触れる体験や木製ブロックの工場見学も合わせて行い森を育

「やまがたの森づくり発表会」  
「やまがたの森づくり発表会」  
「やまがた木育」と活動報告会  
開催のお知らせ

日時	11月25日(日) 11:30~16:00 ※開会 13:00
場所	山形ビッグウイング4階 中会議室 他
内容	<p>〈講演〉 講師：東京おもちゃ美術館 副館長 馬場 清氏 演題：「ウッドスタート」で地域を元気にする ～「やまがた木育」の推進のために～</p> <p>〈代表発表〉 みどり豊かな森林環境づくり推進事業実施団体、市町村、やまがた絆の森企業から4団体 ◇どなたでも参加できますので、ぜひ御参加ください。</p>

〔県みどり自然課〕

「やまがた森林ノミクス」と共調しながら  
森林整備に取り組んでいます!!

## 山形県森林ノ整備事業共同組合

理事長 横山 利幸 [(株)旭産業] 副理事長 高橋 菊男 [(有)高菊林業]  
副理事長 上妻 嘉光 [上妻林業] 専務理事 和泉 誠七 [(同)イヅミ]  
理事 庄司 和敏 [(株)庄司製材所] 理事 荒生 周一 [荒生木材(有)]  
監事 高橋 義見 [(有)高橋林業]

〒990-0829 山形県山形市五日町1番12号

TEL 023-645-5098 FAX 023-645-1892 E-mail: izumisey@yahoo.co.jp

「コロラドに行ってみました」

◇二年生全員がコロラド州の農林業について学ぶ「アメリカ農林業視察研修」は今年で二十七回目です。そして「林業」コースは二年目となります。

九月四日(火)から十三日(木)までの十日間、コロラド州デンバー、フォートコリンズ周辺で、A班(稲作・畜産・農産加工)、B班(果樹・野菜・花き)、C班(林業)に分かれての学科別研修、そして2〜4人ずつに分かれて、三日間のホームステイという行程です。

●ボルダーカウンティ パークスアンド オープンスペース

この地域の森林は、降水量が少ないため、木材の生産というよりは環境保全を主眼に置き森林管理しているのとこのと。

また、山火事による森林の消失とパインビ



ートルによる枯損被害が大きな問題になっていきます。

密集した森林では火の回りが速く大面積の山火事に発展するため、適度な間伐を行い樹間を空け、防火帯を作ることが管理の中心になっているとの事で、学生たちは、時折現れるシカやワイルドターキーの群れとあわせて、驚いた様子でした。

●コロラド州フォレストサービス

ここはコロラド州立大学(CSU)の森林林業、野性動物、天然資源等の関連学部に関する機関で森林施業や山火事被害対策の技術支援、山火事跡地への植栽用苗木生産を行っており、毎年百万本の苗木を出荷しています。



●マウンテンキャンパスとCSU学生との新づくり

フォートコリンズにあるCSUキ

キャンパスの西方約五十キロメートル、標高二千七百メートルにある同校のマウンテンキャンパスでは夏には多くの学生が森林や野生生物について学んでいます。

ロッキー山脈の雄大な景色と山火事跡に生えたアスペンの美しさに見とれていると、突然の雹。

やむなく、予定していた薪づくりはフォートコリンズに戻って行くことになりましたが、地元学生と一緒にバギーによる集材やチェーンソーワークを行えたことは良い経験になりました。

今回の研修では森林の違いやアメリカのスケールの大きさを実感したことはもちろん、習慣や考え方の違う人たちと交流し、身も心も一回り大きくなって帰ってきた十人の学生たちでした。

〔山形県立農林大学校〕



やまがた森林ノミクス”を推進します

山形県森林組合連合会

代表理事会長 佐藤 景一郎

〒990-2339 山形市成沢西四丁目9番32号  
TEL 023-688-8100 FAX 023-688-8103

《県内13の森林組合とともに 山形の森林を守り 育て 有効活用してまいります》

山形地方森林組合	天童市森林組合	西村山地方森林組合	北村山森林組合	東根市森林組合
最上広域森林組合	金山町森林組合	米沢地方森林組合	西置賜ふるさと森林組合	
小国町森林組合	出羽庄内森林組合	温海町森林組合	北庄内森林組合	



みどりのページ

郷土の名木・古木等  
保全事業の実施に  
つなぐ

平成30年度 郷土の名木・古木等保全事業  
交付決定一覧表

所在地	名木・古木等の名称	採択額 (千円)
天童市	大清水の大ケヤキ	495
河北町	蟠竜のマツ	499
河北町	熊野神社の櫻	500
鶴岡市	十文字開発記念樹	500
合計		1,994

郷土の名木・古木等保全事業は、県または市町村から指定を受けた天然記念物の樹木を対象に、県内の樹木医の方々からの協力を得て保全していくもので、今年で3年目となる事業です。

今年度は12件の申込みがありましたが、樹木医による診断と8月に行われた選考委員会により今年度の実施対象木4件が決定しました。

このうち、河北町にある「蟠竜のマツ」の保全作業が10月上旬に行われましたので、その概要を報告いたします。



樹木医による指導を受けながら実施した保全作業の様子

蟠竜のマツは、河北町谷地の個人宅にあり、松の盆栽をそのまま大きくしたような見事な五葉松ですが、3年前にいわゆる松くい虫による被害(正式名称はマツ材線虫病)と診断されました。一般的にはマツ材線虫病に罹ってしまえば助からないというのが定説ですが、マツ材線虫病に対して抵抗力があるとされている五葉松であるためか、枯死せずになんとか生き延びているものの、所々に枯れ枝が発生し、徐々に樹勢は衰弱している状態でした。このため、齋藤敏幸樹木医と五十嵐光雄樹木医による診断・指導のもと、土壌の通気性と透水性を高めるための土壌改良や殺センチュウ剤の投与などが行われました。

保全措置の結果が現れるまで少なくとも数年は掛かると思われますが、元気な樹勢を取戻し、地域のシンボルとして末永く親しまれていくことを願っています。

平成30年度緑の募金公募事業  
の交付決定について

県民の皆様からご協力いただいた「緑の募金」は、森林の整備や身近な緑を増やす活動などに活用しております。一般から事業を募る「緑の募金公募事業」について、今年度は次の2つの区分で募集を行いました。審査の結果、採択事業が決定しましたのでお知らせいたします。

- ◆ ① 森林整備・緑化事業
  - ◆ 内容 広域的な森林整備活動や緑化イベント等
  - ◆ 対象 民間の非営利団体
  - ◆ 交付額 1件あたり上限20万円
  - ◆ 対象経費 資材費、指導者経費等
- ◆ ② 植樹支援事業
  - ◆ 内容 緑化の推進を目的とした樹木の植栽
  - ◆ 対象 民間団体、企業、学校等
  - ◆ 交付額 1件あたり上限10万円
  - ◆ 対象経費 資材費(苗木、支柱、結束材、用土、肥料、標柱、看板)

〔(公財)山形県みどり推進機構〕

平成30年度 緑の募金公募事業 交付決定一覧表

単位:千円

市町村	申請団体	事業概要	採択額
①森林整備・緑化事業(1件あたり上限20万円)			
山形市	山形県環境保全協議会	鶴岡市内の里山での下刈り等の森林整備活動	200
三川町	庄内森とみどりのフェスティバル実行委員会	ブルーベリー苗木を配布する緑のプレゼント	200
②植樹支援事業(1件あたり上限10万円)			
山形市	山形市ボルダー友好協会	山形市野草園内ボルダーの庭にオオヤマザクラを植樹	100
真室川町	たんぼぼこども園	こども園の園庭にナナカマド、ヤマボウシ、ヤマモミジ等を植樹	100
小国町	基督教独立学園高等学校	学校敷地内にミズナラ、シラカシ、アカマツ、トネリコ等を植樹	30
酒田市	酒田市立松原小学校	学校敷地内にアジサイ、レンギョウを植樹	100





— 緑の募金に御協力いただいた企業・団体のみなさま (H30. 8. 1~9. 30)

(山形県みどり推進機構取扱い分)

みどりのページ

(株)アーレスティ山形、(株)アイタ工業、(有)青木建材、(株)青葉堂印刷、曙ブレーキ山形製造(株)、(株)アサヒ技術、旭自動車(株)、芦野工業(株)、(株)安部組、有賀建設(株)、(有)アルファ設計、五十嵐工業(株)、(株)伊藤造園土木、(株)伊藤熱処理、(有)伊東農園、衣袋建設(株)、(有)今川自動車商会、(有)入野商会、(株)ウェステック山形、上野建設(株)、(株)エービーエム、(株)エコス米沢、(有)エコファーム長井、(株)エスパワー、(株)エヌイーエスコポーレーション、(株)エム・エス・アイ、M木工、(株)王祇建設、大江設計(株)、(株)大風印刷、大曾根餅つき保存会、大場印刷(株)、尾形興業(有)、(株)小川建設、置賜クリーン設備(株)、おきたま木材乾燥センター(株)、オビスン(株)、(株)カキザキ、(株)柿崎工務所、(株)和美屋、勝川建設(株)、(有)門脇産業、(株)金沢総合コンサルタンツ、(株)カネト製作所、(株)環境管理センター、(株)菅野測量設計事務所、北日本特殊イサベラ建設(株)、(株)北山建設、共和防災建設(株)、(株)クリーンシステム、(有)クリーンセンター七五三、(有)県南エコサービス、(有)厚生社、(株)幸輪、(有)小関興業、(有)後藤クリーン商会、(有)後藤竹材店、小林防護工事(株)、(株)小松建設、コマツ山形(株)、(株)小森マシナリー、(株)コヤマ、斎藤建設(株)、(株)斎藤板金工業所、(株)蔵王ミート、酒井鈴木工業(株)、(株)寒河江技術コンサルタント、(株)寒河江測量設計事務所、(株)さくらんぼテレビジョン、(株)佐々木建設、(株)佐藤組、佐藤建設工業(株)、(有)佐藤砂利販売、(株)佐藤防災、(有)三英クラフト、(有)山栄測量設計、(株)三益堂、三協コンサルタント(株)、(有)三幸園、(株)サンユー技研、(株)三和、(株)三和技術コンサルタント、三和油脂(株)、J A全農北日本くみあい飼料(株)、J A鶴岡市、(株)シェルター、(株)十字電子、(有)ジョイランチ、城東機械製造(株)、(株)荘内銀行県庁前支店、城北電気工事(株)、伸栄伝導機工(株)、新和設計(株)、(株)菅野測量設計、(株)スカワ、菅原建設(株)、(株)菅原工務店、(株)菅原工務所、鈴木製麺(株)、スズキハイテック(株)、(株)スペースパーツ山形、精英堂印刷(株)、ソック(株)、(株)大栄、(株)ダイユー、(株)大和、(株)大和エンジニア、大和工営(株)、(株)高梨製作所、(株)高橋工務店、(株)タカハシ電工、高橋林産、(株)タカハタ電子、(株)高良山形(営)、田宮印刷(株)、(株)田村測量設計事務所、(株)丹野、(有)ツチャククリーン、鶴岡ガス(株)、(株)テトラス、テルス(株)、(株)出羽測量設計、(株)天童木工、(株)でん六、東光計測(株)、東北エプソン(株)、東北クリーン開発(株)、(株)東北工材、(有)東北紙商、(株)東北消防設備、東北シルク(株)、東北銘醸(株)、(株)東北緑地造苑、十和建设(株)、(株)トーホー、(株)内外ビルクリーン、内外緑化(株)、(株)永田プロダクツ、(株)沼澤工務店、沼田建設(株)、(株)畑山、ヒミヤ石油工機(株)、藤庭園、(株)フジミ、(株)双葉建設コンサルタント、文化清掃(有)、(株)ホリエ、(株)本間利雄設計事務所、マックル(株)、(株)丸江製作所、(株)マルカ、(有)丸吉製作所、(株)マルコウ環境、丸七建設(株)、丸長製材(株)、ミクロンメタル(株)、水澤化学工業(株)水沢工場、ミドリ鮭川工業(株)、(株)ムラヤマ、明立工業(株)、(株)メカニック、最上川土地改良区、(株)最上振興、(有)安野測量事務所、山形いすゞ自動車(株)、(株)山形一進社、(協組)山形ウッドエネルギー、山形ガス(株)、(株)山形環境エンジニアリング、(株)山形銀行県庁支店、(株)山形銀行南山形支店、山形空港ビル(株)、山形警備保障(株)、(公財)山形県産業技術振興機構、山形県職業能力開発協会、山形県信用保証協会、山形県森林土木建設業協会、(一社)山形県測量設計業協会、(公社)山形県畜産協会、山形県中小企業団体中央会、山形県土地改良事業団体(連)、山形航空電子(株)、山形酸素(株)米沢(営)、山形信用金庫、山形設計(株)、(株)山形テレビ、山形電子(株)、(株)山形道路、(株)山形ハーネス、山形富士電機(株)、(株)山形ミートランド、(株)山形メイコー、(株)山形メタル、山形緑十字(株)、山田建設(株)、(株)ヤマトテック、(株)ヤマモト、(株)山本製作所、山和建设(株)、(株)ユアシス、(株)横山測量設計事務所、(株)理研分析センター、ロータス山形(株)、ワイエム技研(株)、(株)渡部砂利工業所、(株)渡辺商店、(有)渡辺鋳造所、(株)渡会電気土木

(敬称略、五十音順)

ご協力ありがとうございました。

## 第23回東北森林科学会

### 大会に参加して

9月3日～4日に、秋田市民交流プラザ・アルヴェにおいて、東北各地の森林・林業に関係する大学や試験研究機関等から約80名が集い、東北森林科学会大会が盛大に開催されました。当センターからも、所長をはじめ10名が参加し、テーマ別セッションやポスターセッションにおいて、日頃の研究成果を踏まえ、活発な討論を行いました。

東北森林科学会は、東北地域における森林・林業に関する科学の総合的發展を通じ、地域社会の生活向上と地域環境の保全を目指すことを目的としています。その成果として、大会（発表会）が毎年開催されています。

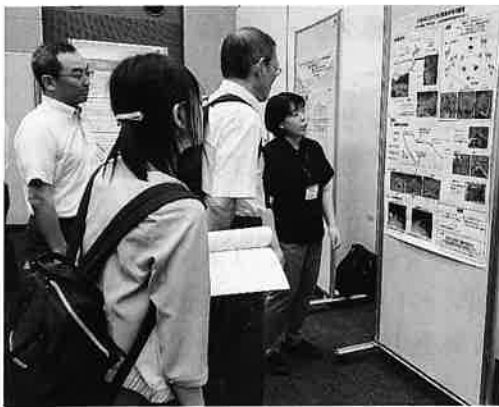
大会では、テーマ別セッション、ポスターセッション及び口頭発表が行われます。テーマ別セッションでは、近年、関心が高まっている再造林の推進について、低コスト化に関する取組みだけでなく、スギ以外の樹種の検討や立地環境を考慮した植栽方法など、森づくりの方向性について発表と討論が行われました。

また、ポスターセッションでは、

低コスト再造林や地上レーザを使った立木調査といったテーマの発表に注目が多く集まりました。

「学会＝難しい」と感じるかもしれませんが、本大会での発表は、森林・林業に関する実務的な事柄についてのテーマも多いことから、皆様も一度、参加してみたいかがでしょうか。来年度の大会は、山形市で開催される予定となっています。

なお、今大会において、当センターの齊藤正一研究主幹が、ナラ枯れに関する数々の研究で画期的な業績を上げたことが認められ、東北森林科学会賞を授与されました。



討論に熱が入るポスター会場

〔森林研究研修センター〕

## 普及情報

### 山形県指導林業士・指導林家等研修会の開催

#### ◆はじめに

森林を支え、森林経営を担う人材の育成と確保は県の重要な施策です。その中で、地域の中核となり、地域の林業経営と木材産業等の振興に意欲的に取り組んでいる実践者として六十五名の林業士が活動しています。うち若手の青年林業士二十二名、ベテランの指導林業士四十五名です。

#### ◆指導林業士・指導林家等研修会

林業士、指導林家、林業グループ、約五十名が参加し、九月六日・七日に庄内地域で研修会を開催しました。一日目は、庄内総合支庁の後藤森林整備課長から庄内地域の森林・林業について説明していただきました。現地では、菅原勝原林業士会副会長のカラマツ等植栽地を見学し、「楽しみながら山仕事することが大切。」との言葉に皆さん頷いていました。

二日目は、庄内林業研究会の土岐耕治氏からコシアブラの林床栽培方法などを説明していただき、その技術に熱心に聞き入りました。その後、指導林業士の加藤章氏が整備した「ひやくねん森・九郎竹炭小屋」に

移動し、三瀬の小学生が自然学習に訪れている状況や学習の意義などをお伺いし、様々な活動をしている姿勢に皆さん感心しきりでした。

#### ◆研修を通して

研修の最後に意見交換会を行い、「山菜類の栽培などで山を活かした多様な取組を進め、次世代に技術継承し、山に入りたくなる環境をつくるのが重要。」「指導林業士から青年林業士へ、そして青年林業士から県立農林大学校生へ、林業への取組姿勢を継承出来れば。」などの、親しみやすい森づくりや担い手に関する意見が出され研修会を終了しました。今後も、地域活性化に向けた多様な取組の推進と技術継承に繋がっていきけるよう、皆さんとともに進めて行きたいと考えています。

〔森林研究研修センター〕



意見交換の様子

# 対談シリーズ 森林組合長に聴く

「森林組合長に聴く」第10回は、東根市森林組合代表理事組合長鹿野内正行氏と、森林研究研修センター、古川和史所長との対談です。なお、総務（兼）業務課長の清野敬介氏に同席をしていただきました。

## 【対談者の紹介】

○東根市森林組合  
代表理事組合長 鹿野内正行氏  
東根市在住 組合長2年目



**売っても買っても合うようにしたい**  
所長…組合長になって2年ですね。生産森林組合の役員もお務めでしたが、山の経営についてはどのようにお考えですか。

組合長…父が財産区の議員として、山について一所懸命でした。部落の人と植林や下刈りをし、将来、一丁

前になったら分けるんだとの思いでいました。それをかなえたいと役員をしてきました。林道の整備や大型機械を入れて生産コストを削減し、売っても買っても合うようにしたいと思っています。

**タラの芽栽培で冬場の雇用の確保を**  
所長…日頃お考えになっていることをお伺いします。

組合長…各森林組合の組合長から、冬期間の労務班の雇用対策が大変だと聞きます。私は、30年ほど前には冬に出稼ぎに行っていました。出稼ぎを解消するための冬仕事はタラの芽しかないとの思いで、作り始めました。冬場の労務班の雇用対策として、良いと思っています。

**林道整備と境界整備が必要だ**  
所長…組合の経営状況をどのように捉えていますか。

組合長…いずれは植林したスギや落葉樹などを伐って出しますが、便利の悪いところは合わないから、まず林道整備が大切だと思います。

所長…地籍調査は進んでいますか。課長…農地がこの間やっと終わりましたが、山はゼロです。

所長…森林環境贈与税は、境界明確化にもお金が使えますので、必要なところはきちんと調べていただきました

いと思います。これはやっぱり市でないと出来ない話です。

**これからの販売の取組みは**  
所長…木材の販売はどうですか。

組合長…前年比で5倍以上です。今までは、木を出すのに機械をリースしていました。それでは利益還元ができないので、7月にグラップル1台を中古で購入しました。所有者と組合のお互いが良くなるように、機械を買ったのは良かったと思います。

**将来的には山をまとめていきたい**

所長…組合員は1,000名くらいで、驚いたのは加入率が9割と高いことです。今後、組合の山をどのようにまとめていくお考えですか。

課長…小規模山林所有者をまとめていくのが本来の形だと思いますが、関山愛林公益会の1団体で経営計画を組んでいるのが実態です。

所長…1,000haくらいが一般組合員の経営対象面積ですが、いずれ全部に経営計画を組むことを考えていくべきかと思っています。

組合長…そうですね、やはり将来はそういう考えでいかないと。所長…大規模所有者から始め、力を付けてから新たなところに経営基盤を作っていくことかと思っています。

職員をもう少し拡充したいというお

考えはありますか。

組合長…これから、スギや広葉樹の伐採は重要になってくると思いますので、労務班を増やす考えです。

所長…労務班は40代が多いのですか。課長…40代ということで、覚えようとする能力が薄く食欲です。研修にも参加してもらい、それには組合でも能力手当と夏季手当を少し上げました。この山をどういうふうにもって行きたいんだということを、皆が考えています。

所長…報酬もきちんと払い、やる気をより引出すことが良いのかと思います。

**植えて良かったと言われるように**

組合長…常に言っていますが、費用対効果の合わない仕事をしてはだめです。木を植えて良かったと言われるようにしたいです。

所長…植えた木が最後に所有者に収益として戻らないと、本当の林業ではないわけです。所有者に還元してまた植えてもらう、もう1度続けてもらう林業に取組んでいただければと思います。

平成30年9月14日 森林組合にて  
対談全文はセンターホームページで

「森林研究研修センター」

## 森の人紹介

### 森林整備を担う若手を育成

青年林業士 小関 大祐さん



新庄市鳥越の有限会社小関興業で素材生産のリーダーとして活躍

されている小関大祐さんを紹介しています。

小関興業は、高性能林業機械等を十台保有し、年間2万mの素材生産を行っています。大祐さんは東京の土木関係の学校を卒業後、建設会社に勤務し、平成一六年に新庄に戻り林業に従事しています。昨年度にフォレストマネージャーの資格を取得し若手を束ねる現場作業の要となっています。

小関興業の森林施業の特徴は、作業員九人で一つの班を構成し、全員で協力し迅速に作業を行い、次の施業地に移動する際は少人数が先行して現場作業の段取りを行った後に、主力の機械化された本体を迎えるという方法です。大祐さんの考えは一つの作業班の人数が多ければ、若い

人もローテーションしながら様々な高性能林業機械を操作する機会がでることで、仕事に対する意欲も増し楽しさも体感できるし、現場作業が途切れることなくスムーズに流れることで、一日の一人あたりの素材生産量は8mを超えるという効率的な作業を行っています。

大祐さんは、若い人にマンツーマンで、チェーンソーによる伐倒作業から高性能林業機械の操作までの一連の仕事を教え、オールマイティーな人材を育て、林業の面白さを伝えたい。これからの林業は伸び代のある魅力ある業界、若い人を沢山採用したいと云っています。

また、会社の業務のほか市内の公園や施設等の樹木の伐倒や剪定をボランティアで行っており、地域への思いが強い優しい人柄です。

自宅では、薪ストーブを使っており、木の持つ柔らかな温かみを、他の人にも伝えたいとの思いがあり、まず薪づくりの活動から始めたいとのことなので、今後は当課でも活動に協力していきたいと思っています。

これからは、会社のリーダーだけでなく地域の森林整備や林業事業体のリーダーとして更なる活躍が期待されています。

〔最上総合支庁森林整備課〕

## 森の人紹介

### 木材港の生き字引

(協)やまがたの木乾燥センター

事務局長 長南 伸一さん



東北で初めて平角(梁・桁)乾燥における高周波装置を導入した

協同組合やまがたの木乾燥センターで事務局長をされている長南伸一さんを紹介いたします。

協同組合やまがたの木乾燥センターは、酒田北港のある酒田市宮海に位置し、庄内地域の豊富で優良なスギ材をバイオマスポイラーでの環境に配慮した、最新設備の人工乾燥による、高品質な木材製品を安定して供給してゆくことを目的として、平成22年に設立されました。この設備による高周波乾燥方法は、蒸気加熱と高周波加熱の複合乾燥により、従来の方法に比べ、短時間で仕上がりが品質のよい乾燥材生産ができるという特徴があります。

その事務局長として設立当初より、地域の木材・製材事業者の調整を図

り、地域木材関連事業の振興発展並びに、高品質な木製品の需給拡大に大いに尽力されています。

そんな長南さんですが、木材との縁は深く、高度経済成長期で国産材が不足する時代に酒田港木材輸入協同組合に所属し、外材輸入をサポートして木材供給の安定化に努めた経験もご紹介します。現在は、酒田植物検疫協会の事務局長も務め、海外からの病害虫の侵入を防ぐ防疫業務を通じて、健全な地域森林の保全にも一役担っておられます。

また、労働安全衛生指導員として、林業労働者の安全確保にも積極的に取り組んでおられます。

その長年にわたる林業・林産の振興への功績が認められ、「平成30年度庄内地方林業振興協議会森林・林業・緑化功労者」として選ばれました。去る10月27日に、酒田市国体記念体育館で開催されました「庄内森とみどりのフェスティバル」において、盛大に授賞式が執り行われ、長南さんに感謝状が贈られました。

長南さんのこれまで培った経験と信頼、そして幅広い人脈を生かし、地域木材の振興発展に向けて、更なる活躍を期待しております。

〔庄内総合支庁森林整備課〕

# 山形ビエンナーレ2018で西山杉の活用をPR

## ◆はじめに

村山総合支庁では、西川町、大江町、朝日町の三町から生産されるブランド材「西山杉」の需要拡大を図るため、今年度初めての取組みとして、東北芸術工科大学主催の芸術祭「山形ビエンナーレ2018」で西山杉をPRしましたので紹介します。



西山杉を使用したシンボルオブジェ「さんもん」

## ◆山形ビエンナーレ2018の概要

「山形ビエンナーレ2018」は山形市街地を中心とした芸術祭で、今年で三回目の開催となります。

開催テーマは「山のような」で、九月一日(土)から二十四日(月)までの金・土・日曜日及び祝日の十

三日間文翔館エリアと芸工大エリアの二会場においてデザインからアート、料理、ファッションなど多彩なプログラムが展開されました。総合支庁では、そのシンボリックなオブジェ「さんもん」(上記写真)の材料に西山杉を提供しました。



(参考) ビエンナーレ  
イタリア語で「二年に一回」の意。  
第一回は平成二六(二〇一四)年度  
開催テーマ「山はひらく」。  
第二回は平成二八(二〇一六)年  
開催テーマ「山は語る」。

## ◆シンボルオブジェ「さんもん」

「さんもん」は高さ約四m、幅約十六mで、芸術祭へのゲート(門)の意味も込めて命名されており、開催期間中はメイン会場である文翔館前庭に常時展示されました。(文翔館旧県庁舎及び県会議事堂は、約百年前に西山杉で再建。)

遮光ネットを設置し、内部には杉玉や木製イスなども配置して集いの場としても利用できるようにデザインされており、期間中は山形市の造り酒屋が地酒を出品して、多くの来場者を集め、メイン会場にあざわしい賑わいを見せていました。

テーブル部分(下記写真)には西山杉の特徴やPRコメントが直接プリントされており、空間やお酒を楽しみながら西山杉を見て触れられる場となりました。



家族連れが集うなど賑わう様子

## ◆「西山杉」の情報発信の強化

「さんもん」の製作にあたっては、デザイン担当者が事前に西山杉が生産される山村や生育の状況、伐採や製材の様子を視察しました。その時の様子や林業・製材業に携わ

る方々を専用ホームページで公開(<http://biennale.tuad.ac.jp/pr-ograms/1554>)して情報発信の強化を図っています。



プリントされたPRコメント

また、芸術祭後の「さんもん」は、平成三十年十月三十一日(水)から十一月四日(日)まで東京ビックサイトで開催される「グッドデザインエキシビジョン2018」の会場に展示され、全国に向けて西山杉をPRしています。

## ◆おわりに

村山総合支庁では、地域のブランド材である西山杉をもっと知っていただくため、今後も様々な機会を捉えてPRしていきます。

〔村山総合支庁森林整備課〕

# 第十三回東日本チェンソーアート競技大会開催

平成三〇年九月一六日(日)、一七日(祝)の両日、山形県遊学の森を会場に東日本チェンソーアート競技大会が開催されました。

今年も初日は晴れ、二日目は雨となりましたが、地元山形県内を始め、北は青森県から、南は福井県まで一名のカーバーが集合しました。

一六日は「メインカービング」で、九時から十六時までの七時間、「家族」をテーマにカーバーが腕を競いました。

一七日は「メインカービング」の作品の審査と「スピードカービング」です。

スピードカービングの課題は「工具(チェンソー)」、「干支(イノシシ)」、「昆虫(ミヤマクワガタ)」の3部門です。九十分でいかにそれらしくカービングできるのが腕の見せ所です。予選審査後、各部門の上位1名が決勝に進みました。決勝の課題は、会場の観客の要望に答え、「ラーメン」、「ベント」、「アンパンマン」となり、今までないカーバーのイメージ力を試されるものでした。これを三十分という短時間で競いました。

この二日間、豪快なチェンソーカービングの音と、観客の笑顔が遊学の森を満たしていました。

## 【主な入賞者】

「メインカービング部門」

優勝 佐藤 雄三(山形県)

「お母さんのおなか いいなあ」

「カーバズチヨイス部門」

優勝 梅沢 康二(福島県)

「羊の親子」

「スピードカービング部門」

優勝 佐藤 雄三(山形県)

「ラーメン」



メインカービング優勝作品

〔最上総合支庁森林整備課〕

# 分収林契約の更新及び変更について

## ■分収林契約

林業公社は、土地所有者による整備が困難な森林について、分収林契約によって造林を推進するため昭和42年に設立されました。分収林契約は、土地所有者が土地を提供し、林業公社が植栽・保育・路網整備等の森林整備を行い、収穫時に木材収益を土地所有者と林業公社で分け合うことを約した契約です。また、森林整備を通じた森林の公益的機能の高度な発揮や、県民生活に必要な木材の安定供給を図ることと併せ、地域の雇用創出に寄与しています。

## ■経営改善の必要性

現在、収穫時期に至らない中、木材価格の低迷や労賃の高騰などにより、契約当時と社会状況が激変し、経営が厳しい状況になっています。このようなことから林業公社では、人件費削減・低利率資金への借換え・施業基準の見直し等を行ってまいりましたが、抜本的な財務状況の健全化と分収林事業の継続のためは、契約者の皆様と関係機関の方に、分収割合の変更と契約期間の延長についてご理解をお願いせざるを得ない状況に

あります。具体的には、分収割合については現契約の割合「林業公社6：土地所有者4」を「林業公社7：土地所有者3」に、契約期間は伐採収穫量増加のため当初契約の50年間又は70年間を90年間においています。

■分収林契約の更新及び変更について  
分収林契約は超長期にわたります。契約者の相続による更新は必然な状況で売買による変更も想定されませんが、分収林契約の継承が不可欠ですので、皆様のご協力や情報共有をお願いいたします。

### 【契約者の方へ】

以下の場合、直ちに公社にご連絡下さい。

- ①契約者の方がお亡くなりになった場合、又は、契約地を新たに相続された場合。
- ②契約代理人や代表者が変わられた場合。
- ③契約地を売買する、又は他人に譲渡しようとする場合

### 【関係機関の方へ】

契約者の方へ分収林契約更新及び変更の手続き周知や情報共有にご協力お願いします。

〔公益財団法人山形県林業公社〕

## 林業成長産業化地域創出モデル事業(最上・金山林業成長産業化地域)の取組み

# 『最上・金山林業成長産業化人材育成塾』が開催されました

十月一日(月)及び二日(火)の二日間、最上・金山森林ノミクス推進協議会が主催する「最上・金山林業成長産業化人材育成塾」が開催されました。この事業は、国が林業の成長産業化の実現に向けて取組む先進地域を「林業成長産業化地域」に指定し、優先的に支援を受けることができるもので、全国で二十八地域が指定され、本県では『最上・金山地域』が指定を受けています。

### ◆高性能林業機械メンテナンス研修

十月一日、台風二四号の影響が残る中、レンタルのニッケンから講師をお招きし、高性能林業機械のランニングコストの軽減につながる日頃のメンテナンスの重要性や点検方法に関する研修が行われました



始業前点検の研修状況  
(金山町農村環境改善センター)

た。実際にニッケンで使用している作業開始前点検記録簿を使い、項目毎に点検時の留意事項などの説明を受け、参加者はメモを取るなど熱心に聞いていました。機械の修理費について事業体から聞き取りしたところ年間平均五十万円かかるとの結果でしたが、ニッケンのレンタルした機械で始業前点検を行った場合は、年間十七万円まで削減できたとのことでした。ランニングコストを抑えるため、常日ごろの点検の重要性を改めて認識できました。

### ◆講演会

十月二日、東京大学名誉教授の酒井秀夫氏による講演会が新庄市ホテルニューグランドで開催されました。「パーリュウチェー」が創



酒井秀夫氏の講演

造する成長産業化」というテーマで講演され、『木材の生産においては、高性能林業機械は進化し大型化も進んでいるが、コスト高にもなることから、事業規模に合った機械化が重要である。大型車による運搬が必ず効率的とは言えず、中間土場を活用して小型車での運搬の方が効果的ということもある、そのため工程ごとのコスト管理が重要で、こうした取組みをコーディネートする人材育成が不可欠である。』など、今後の取組むべき方向性を具体的な事例を交えて示していただきました。



### ◆花粉発生源対策イベント

二日の午後からは、同会場で花粉発生源普及イベントが開催されました。この事業は、今回の人材育成塾

との併催行事として一般社団法人全国林業改良普及協会が主催し、林野庁と県が後援して開催されたものです。内容は、林野庁や国立の研究機関が取組んでいる花粉発生源対策や、開催県となる本県の木材利用を促進する取組みなどを発表しました。

国立研究開発法人森林総合研究所の窪野氏の発表では、天然に存在する花粉の飛散を阻害する菌を培養し、直接散布することにより花粉飛散量を八割程度削減できる画期的な取組みなどが紹介されました。

### ◆おわりに

林業成長産業化地域創出モデル事業は、平成二十九年度からの五年間の事業となります。この事業の成果を県全体に普及できるように、関係機関との連携を一層深めて、やまがた森林ノミクスの取組みを加速してまいります。



窪野氏の発表

〔最上総合支庁森林整備課〕

## やまがた絆の森

### 「イオンの森」森づくり活動を開催

9月23日(日)、飯豊町の山形県源流の森内にやまがた絆の森として設定された「イオンの森」を会場に、平成30年度の森づくり活動が行われました。「イオンの森」では、平成24年から毎年植樹・育樹活動が続けられており、今年は樹木の成長を促す施肥を実施しました。

活動にはイオン東根店、天童店、山形北店、山形南店、米沢店、福島店とマックスバリュートー東北の各店社員とイオンチアーズクラブのメンバーと指導者総勢約100名が参加しました。

開会式では、置賜総合支庁森林整備課の挨拶に続き、美しいやまがた森林活動支援センターの三森副理事長から、活動の目的と注意事項について大きな手書きの紙芝居を使っ



分かりやすい説明があり、子ども達は、施肥の必要性について

しっかりと理解していました。



活動は5班に分かれ、各班ごとに割り当てられた場所で、植栽木の成長を確認しながら1本1本に固形肥料を撒い

ていきました。

その後、昨年植えた森のホームステイ苗の生育状況を確認し、自発的に草むしりをするなど、連年の活動を体験した子ども達には、森を育む心が根付いているように感じました。



た。〔置賜総合支庁 森林整備課〕

## 地域再生シンポジウム2018 in 山形の開催

置賜地域は県内で最も広葉樹資源が豊富な地域です。この広葉樹をテーマとしたシンポジウムが、去る9月13、14日、置賜地域を会場に開催されたのでご紹介します。

主催は、森林総合研究所と東北大学大学院農学研究科で、持続的な広葉樹材の利用による地域再生を図ることをテーマとして開催されたものです。28年度に引き続き置賜では2回目の開催となります。

13日は、米沢市の置賜総合文化センターを会場として、県内外から約140人が参加しました。最初に、東北大学大学院の清和研二教授から「広葉樹林の持続的生産にかかわる研究」と題した講演があり、続いて、森林総合研究所東北支所の天野智将森林資源管理研究グループ長から



「広葉樹林の活用」と題した講演がありました。講演に続き、4名の方から広葉樹に関する

実践事例についての報告があり、最後に講演者や報告者をパネラーとして「広葉樹の適正な管理と資源の利用拡大に向けて」をテーマにパネルディスカッションが行われました。



なお、当日は、広葉樹を活用した木製品などの展示も行われ、参加者の関心を惹いていました。

14日は現地見学会で、源流の森(飯豊町 ブナの森)、(銜山形工房(長井市 けん玉)、(株)ニューテックシンセイ(米沢市 もくろック)を回り、約50名が参加しました。

参加者のけん玉、もくろックへの関心が高く、多くの方が買い求めていました。

木材利用というと、スギを中心とする針葉樹を思い浮かべますが、広葉樹は、その多様な用途から、活用の幅は非常に広いということを実感した二日間でした。

〔置賜総合支庁森林整備課〕



# 森林経営計画作成促進に向けた研修会の開催

## ◆目的

森林経営計画制度が始まって7年目となりました。しかし、年数が経つごとに制度の拡充や運用の追加等があり、複雑化しております。このため、森林経営計画の作成促進と適正な森林経営計画の認定審査等を目的として、各種研修会を開催することとしました。

## ◆森林情報（QGIS）研修会

森林情報（QGIS）研修会は9月5日（水）に午前・午後の2回に分けて、庄内総合支庁分庁舎で開催しました。

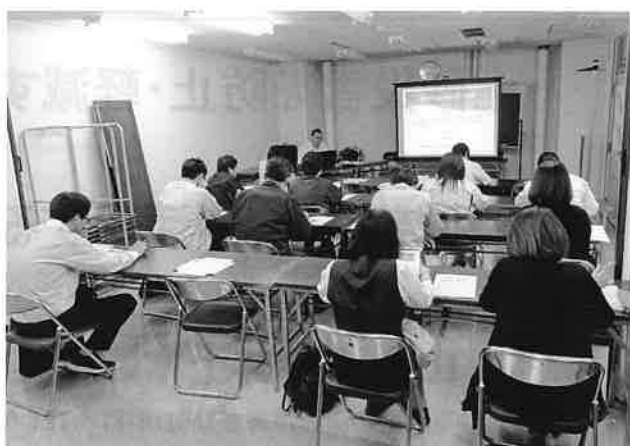
当管内の林業事業体の多くは、フリーのGISソフトであるQGISを用いて森林経営計画書に添付する計画図（作業道等も含む）を作成しております。このため、森林経営計画書の作成に少しでも役立てればと思います、今回の研修会を企画しました。今回の研修会はパソコンを用いた実践形式として、メイン講師である朝日航洋株式会社の今井氏が操作説明。4名の講師が巡回指導する形で実施しました。研修会では、基本操作等の初級編



## ◆森林経営計画研修会

森林経営計画研修会は9月27日（木）に庄内総合支庁で開催しました。

から空間解析、林齢を色分けする等の応用までを含めた内容で行いました。また、今回の研修では実践までできませんでしたでしたが、ポータブルGPSで座標点を取り込み、作業道の線形を入れる操作について説明したところ、参加者からは実務でも活用できるとの意見もありました。



対象者は、森林経営計画を作成する林業事業体の担当者として森林経営計画を認定する市町村担当者を対象として行いました。

森林経営計画制度の説明から平成26年度に運用で改正された点、認定基準、林業事業体や市町村から相談された内容も含めて説明を行いました。また、意見交換では、実際に作成した森林経営計画作成の考え方や認定要件等について意見交換がありました。これからは森林経営計画作成促進のため、研修会等の取組みを行っていきたくと考えています。

〔庄内総合支庁森林整備課〕

地域の暮らしをしっかりとバックアップ!!

総合電設業、木質燃料製造販売、一般廃棄物・産業廃棄物リサイクル事業

# (株) 渡会電気土木

代表取締役社長 武田 啓之

本社/鶴岡市下山添字一里塚36

☎0235-57-2454代 FAX 0235-57-2345

環境事業部・田代工場/鶴岡市田代字広瀬16-2

☎0235-57-4778代 FAX 0235-57-4786

庄内工場/東田川郡庄内町狩川字砂山外6-4

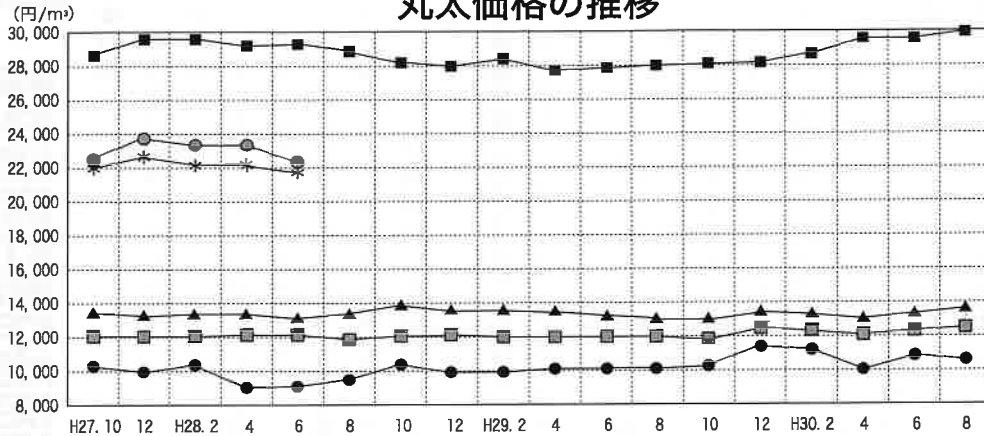
☎0235-57-4778代 FAX 0235-57-4786

営業所/酒田・山形・米沢・新庄・仙台・酒田共同火力工事事務所



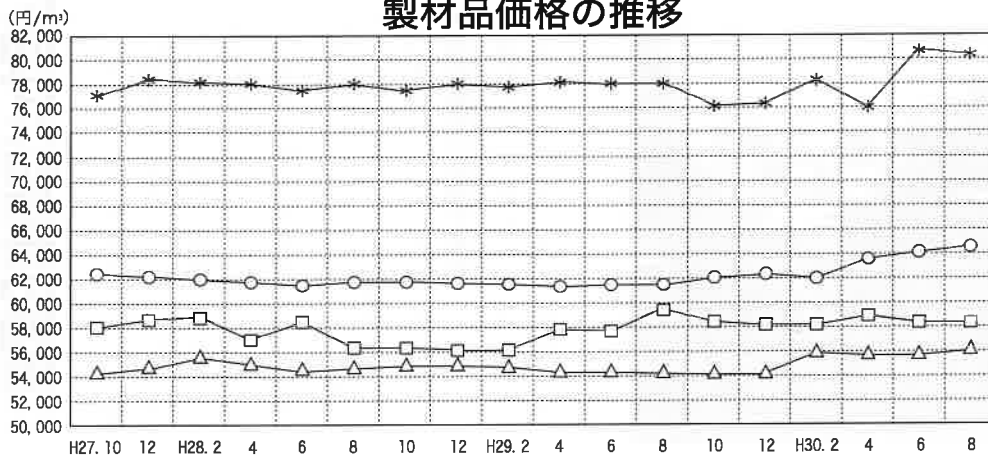
木質ペレット  
あります!!

### 丸太価格の推移



- スギ小丸太
- スギ中丸太
- ▲ スギ大丸太
- 米マツ大丸太
- \* 北洋アカマツ中丸太
- 北洋カラ中丸太

### 製材品価格の推移



- スギ正角(柱)
- △ スギ正角(母屋)
- スギ正割
- \* 米マツ平角

土砂災害を防止・軽減するには  
「治山施設」が必要です  
森林を整備・利活用するには  
「林道施設」が必要です

山形県森林土木建設業協会 会長 堀川 隆志

◇事務所：山形市あさひ町16-21 TEL(023)632-3893 FAX(023)632-5454

—全国食用きのこ種菌協会会員—

〒999-7757  
山形県東田川郡庄内町払田字村東17-2



株式会社  
河村式種菌研究所

お問い合わせは：電話 0234(42)1122(代)  
FAX 0234(42)1124

東北みちのくの珍味  
トビマイタケ菌床  
まいたけ 楳木

庭先でも栽培  
できます。



きのこ種菌 しいたけ・なめこ・ひらたけ・むきたけ・かのか・くりたけ他